

1

絵画
×
鑑賞

アクリル絵具で描く 風景を再構成する

第1回/全8回

教科書

高校生の美術1【P138~139】
高校生の美術2【P4~15】

使用する
道具

鉛筆、シャーペン、色鉛筆、消しゴム、
A4用紙、バインダー、クリップなど

単元の目標 自分が風景から感じ取った印象を形や色に置き換え、再構成してあらわしてみよう。

今日の目標

基本的なスケッチの技術や知識を身につける。

ARTIST に目付とともに記入

制作の流れ

- ① 用具について ▶ ② 構図の取り方 ▶ ③ 描き出し ▶
④ 下描きの完成 ▶ ⑤ 色鉛筆での着色

① 用具について

今回は鉛筆3本（6B/2B/Fの3種類）、消しゴム、色鉛筆を準備しました。描く場所やもの、時間に合わせて用具を選びますが、あまりこだわる必要はありません。

描きやすいようにA4の用紙はバインダーに留めてあります。

POINT 鉛筆はカッターなどで芯や木の部分を幅広く見せるように削ると、折れにくくなります。また、鉛筆を寝かせて広く塗るという技も使えます。

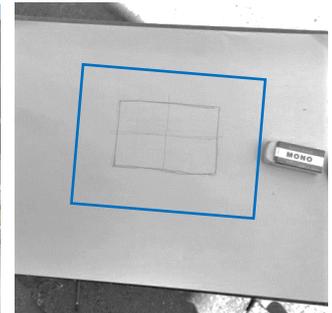


② 構図の取り方

では実際に外に出て、描く場所を決めましょう。

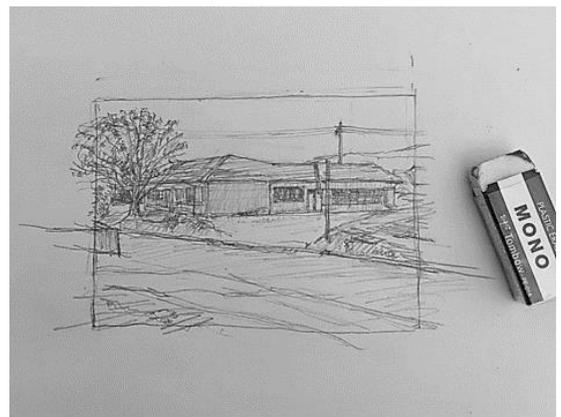
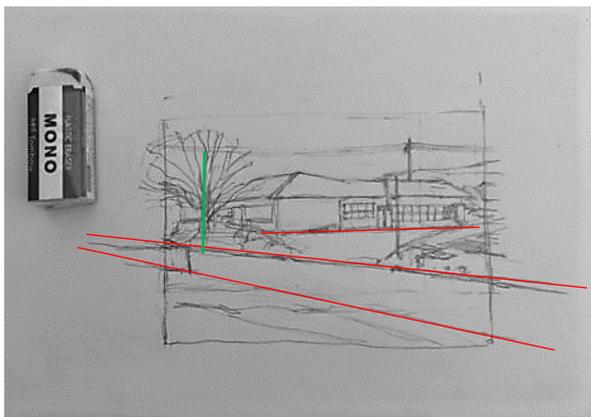
私は学生会館を選びました。屋根の形が面白いことと、脇に立つ桜の木が力強く魅力を感じます。画面の切り取り方やどこにどれくらいの大きさを描くかを決めることを「構図」と言います。画面の切り取り方で印象が大きく変わります。

スケッチするときには最初から紙いっぱいに描かず、10cm角くらいの大きさを描くと、後で構図を広げたり狭めたりの調節ができます。



指で「L」をつかって、切り取る範囲を決めると良いでしょう。紙には切り取った範囲を描きますが、そこからはみ出すように描くようにしましょう。

③ 描き出し ▶ ④ 下書きの完成



建物の形なども大切ですが、地面の意識や傾き具合などに気をつけなければ、良いスケッチはできません。最初はあまり細かい部分にこだわらず、全体を進めるようにしましょう。影も積極的に描写して、明暗を描き込んだら下描きの完成です。(ここまで20分程度)

⑤ 色鉛筆での着色

初めに空の色を決めます。空の明るさによって、景色全体も変わるからです。

次は主役の学生会館の屋根に色につけます。明るいピンク色ですが、黄色や赤を差し色にして変化をつけます。決まりきった色をべた塗りすると、単調になったり空間が損なわれたりします。色を楽しむつもりで、意外な色を使ってみると、思わぬ効果が得られることがあります。



POINT 地面の色は黒・青・紫・オレンジの4色を使っています。

▼完成作品「学生会館」約40分



まとめと次回の予告

今日の目標「基本的なスケッチの技術や知識を身につける」はどれくらい達成できたでしょうか。ARTISTに「授業を終えての感想」と「自己評価」A~Dを記入してください。自分の絵を振り返って同じ風景を見る角度や切り取り方を変えたら、どんな絵になるでしょうか？一つの物事も見方や立場が違うと、全く違った側面が見えてきます。また、右の写真は書き終わったころの時間ですが、最初の写真と影の位置が変わっています。時間や天気によって刻々と変わる風景をスケッチすることは、私たちが今この瞬間しかない時間を生きていることを教えてくれます。



さて次回は、これまでのスケッチを組み合わせ、自分がイメージした風景を考えていきます。